



## 春季消防演習での救助訓練（5月19日）

主な内容

- 成人式に257名が出席…………… 2 3
- 春の叙勲…………… 4
- 学童・少年野球の結果…………… 4
- 中学生武道演武見学会…………… 5
- 春季消防演習を実施…………… 6
- カメラスケッチ…………… 7
- 加茂の風土記…………… 8

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院を盛り立てましょう  
 「美人の湯」も加茂市の宝 美人の湯をよろしく願ひいたします



責任を持って

社会貢献の一翼を

二百五十七名が出席

五月三日、文化会館で成人式が開催されました。今年の成人式には、平成四年四月二日から平成五年四月一日までに生まれた人たち三百三十四人を招待し、式典には二百五十七名が出席しました。成人式を迎えた人たちが生まれた年は、加茂山公園リス園のオープンやロシア・コムソモリスク市との中学生訪問交流が始まりました。

式典で小池清彦市長は、易経から「天行は健なり、君子以て自強（じきょう）して息まず」と、論語の中から「仁を以て己が任と為す」の二つの言葉を新成人の皆さんに贈り、活躍を期待しました。また、現在の平和憲法を守ることが大切だとし、「新成人の皆さんの力で平和憲法を守り、海外派兵や徴兵制につながる政策にならないように注視してほしい。徴兵制になれば、皆さんが世界のし烈な戦場に行くことになる。」と挨拶しました。



司会の山田 協さん、泉 知佳さん、吉田英理花さん





二十歳の誓いを述べる高橋架歩さん



高橋さんに続いて誓いを述べる小島詩織さん



閉式の宣言をする小池正和さん



開式の宣言をする佐藤正明さん



小池清彦加茂市長

新成人を代表して、高橋架歩さんと小島詩織さんがそれぞれ、「これまで支えてくれた家族や友人に感謝するとともに、責任を持つて社会貢献の一翼を担う」と、二十歳の誓いを述べました。

式典後、各中学校ごとに記念撮影を行い、会場を産業センターに移して、新成人の実行委員会が主催するパーティーが開催され、久しぶりの同級生との再会に盛り上がっていました。



三浦伸一加茂市教育委員長



高橋禧雄加茂市議会議長

# 春の叙勲

公共のために功労があったとして、春の叙勲において、加茂市から二名の方が受章されました。その受章の声をうかがいました。

## 瑞宝単光章

(消防功労)



吉井 貞衛さん  
(下興野・75歳)

「一人でできることではなく、家族や地域、消防署の協力がなければできないこと」と受章の感想を話されます。

吉井さんは、昭和三十六年から三十七年間にわたり、消防団活動にたずさわり、平成元年から三期九年間、副団長を務めました。下条地域での火事は多くなかったというかわりに、下条川や用水路の「水害」は、加茂川、下条川の改修が完了するまで毎年のようにあ

り、下条川の改修では、住んでい

る地域全体が移転しました。事者叙勲の受章にあたり、喜びの

消防団の活動は、火災を消せば

声をお聞きしました。

終わりという作業でなく、火事を

大橋さんは、陸上自衛隊の松本

出さないための活動が、実は半分

駐屯地から、旭川、横須賀、新発

以上で、ポンプ車でのパトロール

田の各駐屯地に合わせて三十五年

などが行われています。生活様式

勤務しました。訓練を繰り返すの

が日々変化するなかで、火災予防

が当たり前という中、レンジャー

の啓発や、火災に関する知識と対

訓練も経験しました。

処など「今の団員は大変でしょ

最初の任地となった松本では、

う」と心配されます。

山岳遭難による救助活動に出動し

毎日の日課はとお聞きすると、

たことが思い出されます。松本と

今も農業という職業から、自然・

いう地理の関係で、北アルプスか

気候に合わせながら田んぼや畑に

ら中央アルプスの主だった山は登

足を運ぶ毎日とのことでした。

ったそうです。「災害派遣に限ら

ず、普段の訓練がなければ大きな

部隊や大勢の人や機材をうまく動

かせません。それを思うと受章は

この業務に係わる人たちがいた

いたものなのでしょうね」と話さ

れました。

趣味は日帰り温泉巡り。「新潟

県内には、たくさん温泉があるので

いつでも楽しめる」と答えて

いただきました。

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた

いた



大橋 和郎さん  
(下大谷・64歳)

## 瑞宝単光章

(防衛功労)

受章の知らせを受けての感想は「思いもよらないことで、ただび

つくりしました」と、危険業務従

## 第33回 全日本学童野球 中越大会予選会結果

期日 四月二十九日・五月三日  
会場 七谷野球場  
出場 加茂・田上から六チーム  
優勝 下条ファイターズ  
準優勝 石川ビクトリーズ

## 第65回 加茂市少年野球大会

期日 四月二十九日  
会場 七谷野球場・羽生田野球場  
優勝 葵中学校  
準優勝 若宮中学校



# 中学生武道演武見学会

市内全中学生約八百人が見学



空手道



柳生新陰流剣道



合気道

五月七日、文化会館で中学校保健体育授業で行われる武道授業の見学会がありました。昨年からの武道が必修科目となりましたが、加茂市では平成二十二年から武道授業を始めており、今年で四年目となります。

生徒が選択できる種目は、柔道、合気道、剣道、空手道、柳生新陰流剣道、なぎなたの六種目あり、この日、指導される先生から模範演技を披露していただきました。



柔道

この見学会は、各種目を実際に見てもらおうことで、生徒自身が自分に合った種目を選択してもらおうことを目的としています。

授業は、十月に下条体育センターを会場に、各学年ごと市内五校の生徒が集まって行われます。授業を受ける生徒たちも「他校に友達もできるし、道着を着るのも楽しみです」と話していました。



剣道



穴澤流薙刀

# 火災・災害に備え 春季消防演習を実施



大通りでの消防団員・消防車両のパレード



分団各部長32名による部隊訓練



都ヶ丘地区の皆さんが参加した初期消火訓練

春季消防演習が五月十九日、加茂小学校グラウンド・大通り・加茂川河川敷を会場に行われました。式典では、長年、活動されている団員へ火災時の出動や日ごろからの火災予防活動や、それを支える家族の方々に感謝し、小池加茂市長から表彰状が贈られました。続いて、加茂小学校グラウンドで第一分団から第七分団の通常点検と、分団各部長三十二名による部隊訓練が行われ、息のあった行進が披露されました。災害発生の際には、いち早く対応できるよ

うに、団員の皆さんは仕事が終わった後や休日に訓練や練習を重ねているそうです。次に加茂地域消防署員の救助訓練では、建物三階の負傷者を安全に地上へ降ろし、救急車で搬送する一連の訓練が続きました。市民の皆さんにも「いざ」というときのための初期消火訓練に都ヶ丘地区の十名から参加していただきました。燃え上がる炎に消防署員の「あわてず」「火元から」というアドバイスに、参加者から



402名消防団員と消防署員が参加

「実際に消火器を使う機会はありませんのでいい経験になりました」と感想が聞かれました。このあと、消防団員、消防団車両三十二台、加茂地域消防署車両七台が大通りを分列行進し、栄橋から諏訪橋の間の右岸河川敷で放水訓練が行われました。



加茂川河川敷での放水訓練

## カメラ スケッチ



### 大通り春まつり（5月3日）

大通りの駅前商店街から穀町商店街の間を歩行者専用にして行われる恒例の春まつりに大勢の方からおいでいただきました。今年も運行されたミニSLの出発場所に登場した本物の加茂駅長さんに、子供たちはとても喜んでいました。



### 加茂まつり（5月21日）

青海神社春季祭礼の御神幸が行われ、この一年間に生まれた乳児たちが乳母行列に加わりました。晴やかな産着で着飾った子供と一緒に歩く姿に、沿道からは温かな声が送られていました。御神幸は、午後二時ころに出発して、青海神社－道半交差点－旧道・秋房・折り返し－大通り－松原－郡道（御神輿の一台は旧下条農協を經由）－駅前－宮大門－青海神社（午後五時三十分ころ）という行程です。乳母行列と御稚児行列は青海神社－若宮町－穀町の間を初夏の日差しを思わせる中を歩きました。



### 田植えに挑戦（5月9日）

加茂西小学校では、近くの水田で児童達が田植えを行いました。地域の農家の人から教えてもらい、ひざ下までもぐりながら約三アールに苗を植えました。苗の品種は「こがねもち」です。稲の成長を観察し、九月にはたくさん収穫できるように育てていきます。

# 三角チマキが多かった

## 大正期の長瀬神社春祭り

六月十五日は、八幡の長瀬神社春祭りである。この頃になると、ようやく笹の新葉が伸び、チマキを包める大きくなる。農家の田植えも終わり、加茂の家々では長瀬神社の氏子に限らずこの家も一斉にチマキを作り、家族で食べるほか、故郷の香りを全国の親戚・縁者に送る。

チマキといえは今では笹団子のことを指し、長瀬神社の春祭りが「団子祭り」とも呼ばれるくらい、米粉の団子を笹で包んで蒸した笹

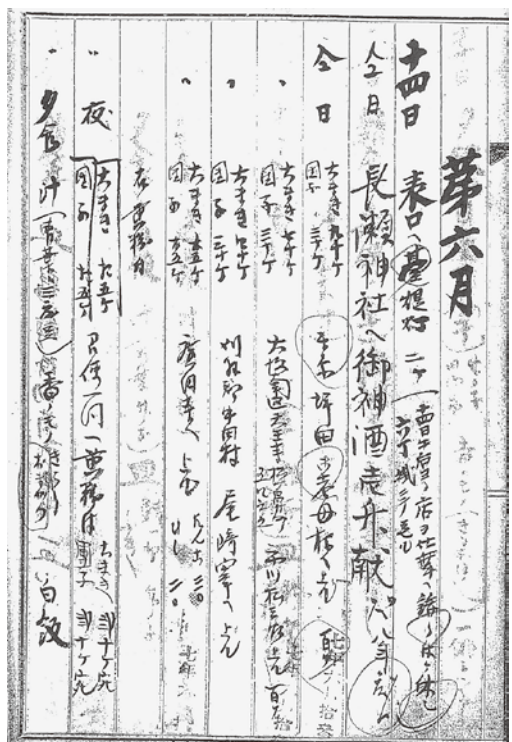
団子が一般的になっている。しかし、少し前までは餅米を笹の葉で三角形に包んで蒸した三角チマキも多く作られていた。きな粉をまぶした三角チマキの方が笹団子より私は好きだ。

いずれにしても、結んであるスゲを解いて笹をはがした時の新葉の香りが季節を感じさせる。

大正五年（一九一六）の加茂町の大地主市川家でも、宵宮の六月十四日に贈答用を含め大量の三角チマキと笹団子を作った（以下



「年中行事記」による。



市川家の「年中行事記」六月十四日の記録

贈答用では、東京の坪田家へが三角チマキ九十個・笹団子三十個と最も多く、大阪など親戚四軒へ三角チマキ二百四十個と笹団子百二十個にきな粉を添えて汽車便で送った。三角チマキが笹団子の二倍と多く、遠方では三角チマキが好まれていた。ほかに菩提寺の広円寺へそれぞれ二十五個ずつ持参した。

家の使用人には、通常の食事とは別に夜食用として一人宛三角チマキ（きな粉付）と笹団子を同数の十五個ずつ支給された。翌六年からは使用人へは五個ずつ増やされ二十個ずつとなった。

（長谷川昭一）

### 加茂消防団のラップ隊

消防団のラップ隊には十三名が活動しており、消防演習や出初式などで活躍しています。



人口のうごき	
5月1日現在	
世帯	10,256 (+16)
人口	29,844 (-14)
男	14,388 (-7)
女	15,456 (-7)
( )内は前月比	
(4月異動分)	
出生	18 (男13 女 5)
死亡	35 (男12 女23)
転出	71
転入	74